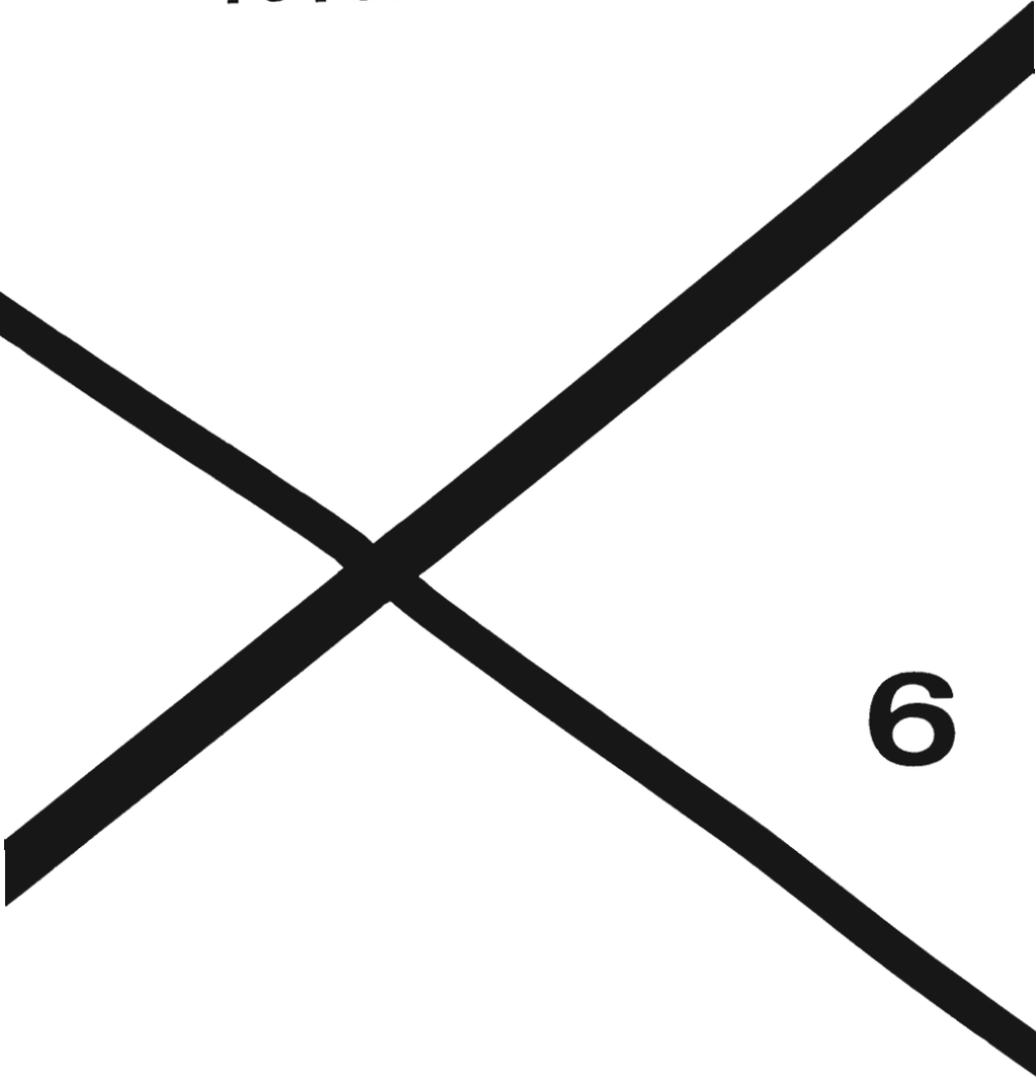


八角塔

1970. 3



6

慶應義塾図書館

《巻頭言》

新しい門出に

高鳥正夫

(図書館長)*

八角塔 第6号

目次

《巻頭言》

新しい門出に 高鳥正夫… 1

情報科学研究所の活動と

研究教育情報センター 印東太郎… 3

理工学情報センターの
計画概要(案) … 6

医学情報センター
計画とその実現 外山敏雄
天野善雄… 13

資料 文学にあらわれた

コンコードダンス … 18

情報センター出版物 … 5

八角塔/第6号/昭和45年3月1日

編集発行人 石川博道/発行所 慶応義塾図書館
東京都港区三田2-15-45/電話(453)2111(大代表)

4月1日から慶應義塾大学研究・教育情報センターが発足し、同時に、三田情報センターが活動を開始することとなった。昨年4月に情報センター準備事務局が設けられてから、丁度1年を経過した



たわけである。この間に開催された数十回にのぼる会議、事務打合せ、あるいは利用されあるいは廃案となった大量の資料、計画書の整理、作成など、数多くの人々が研究、教育上の便宜を一層促進するため、全般的な視野に立って協力を惜しまなかったことに、準備本部長として深く敬意を表したい。また、今年の3月初めから新しい職場に移動して、従来の図書館、研究室の業務の処理に当たりながら、情報センターにおける図書、資料の効率的な収集と集中的な整理を実現する準備に入り、実に多忙な毎日を通して関係職員に感謝している。

八角塔の第5号が発行された当時まで、佐藤塾長は準備本部長としてセンター計画の実施に当たってこられたし、その号で情報センターを新幹線にたとえて、図書館という東海道線に加えて新幹線をひくことにより、研究者に対して徹底的な情報を提供し、大いに研究の便をはかりたいと述べておられた。この計画の線にそって、私もその具体化に当たってきたわけであり、ここに情報センター全体の骨組みと共に、三田情報センターを発足させることができた。これに続いて今年から来年にかけて、医学情報センター、理工学情報センターを設立し、2年後には日吉情報センターを発足させたいと考えている。

三田情報センターを発足させるに当たって配慮した点の一つは、70年の伝統と50万冊に及ぶ蔵書をもつ図書館本館と、戦後充実のめざましい研究室の蔵書と機能とをどのようにして融合させ、これを新しいセンター構想のなかへ持込むかという点であった。特に、図書

館に対するイメージが年代層によってかなり異なっていたこともあって、図書館に深い関心と愛情を持つ人々にとっては、それは不可能な事柄のようにさえ見えた。反対に、新しい考え方を重視する者は、その点の解決を何よりも問題とした。そのため、この点については半年近くの日時をかけ、何回かの会合を開いて討論した結果、無計画に両者を合体することを避け、図書館と研究室の蔵書構成を点検し、それぞれの特色を維持しながら、必要な図書、資料を収集することにまず力を入れることとした。その意味では、情報センター構想といっても、何も無計画に図書館や研究室を解体したり、各学部の図書委員会の活動を否定するものではない。図書館と研究室とが一体となって周到な取書計画を立案し、それぞれの図書選定機関が協力して、義塾の研究、教育に役立つような図書、資料の収集によることとなる。

情報センターが周到な取書計画に基いて収集を行なう場合、これを補助し準備する専任の担当者が従来はいなかったが、新たに収集担当者を設け、効果的な取書が可能となるようにした。また、購入の決定した図書、資料については集中的に整理し、利用者に提供できる組織をもつこととなる。更に、研究者に必要な専門的書誌、索引、出版目録などを整備し、また、レファレンス業務を更に拡充して、情報サービスの向上に努めたい。また、研究室と図書館とが従来にもまして密接な連絡をとることができれば、これまでも広くサービスを提供してきた図書館が、利用者としての学生に注目して、一層密度の高いサービスを行なうことも

可能となる。

こうした新しいセンター構想を実現していく場合、これが成功するかどうかは綿密な計画と見通しをともつかどうかにかかってくるが、同時に、その構想を実現するにふさわしい人的、物的施設が十分に与えられるかという問題も無視できない。その点からいうと、情報センター発足の時期としては、必ずしも最善の時期とはいえない。物的施設の面での制限があるほか、人員的にも、図書館、研究室所属の職員の協力のみ頼らなければならないからである。一方では研究者の無限に近い要求を当然のことと思いつながら、これに応えるに十分な人員と施設を発足当初にもってなかつたことは残念なことであつた。けれども、研究者の求めるサービスと、年々2万冊以上の割で増加する図書、資料の量を前にすると、これ以上情報センターの発足を遅らせることはできなかった。

情報センター関係者としては、これまでも各種の印刷物や会議をおとして、センター発足の必要性や準備の各段階を説明してきた。けれども、三田でもまだ情報センターが何を考え、何を実現していくこうとするかを知らない人も少なくない。今後も従来以上にセンター関係のニュースを伝えて、研究者の協力をえて、義塾の研究、教育活動に一層便宜を与えるよう努力していきたい。ただ前にも述べたように、三田情報センターの関係職員は、一方においてはこれまでの業務を処理しながら、職場の移動や業務内容の変更など、新しい事務手続に入る準備を行なっている。そのため、三田情報センターの発足当初からは、センターの機能を

直ちに発揮できないことがあるかと恐れている。関係職員は一日も早くこの新しい方式を軌道にのせ、従来以上に研究、教育に大きな便宜を与えていくことを願っている。そこで利用者各位におかれても、情報センターの発足後しばらくの間は、これを育てる温い気持をいだいて下さることをお願いしたい。

*(兼研究・教育情報センター準備本部長)



情報科学研究所の活動と 研究教育情報センター

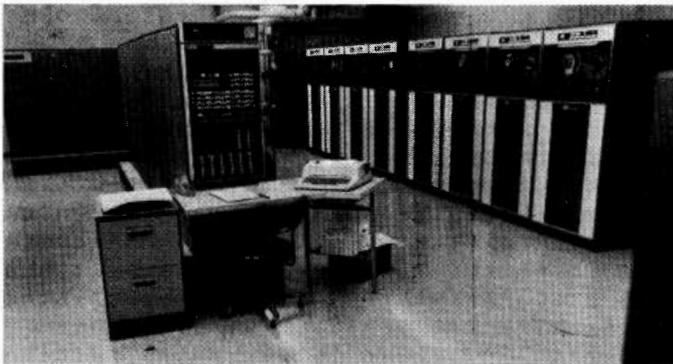
印 東 太 郎
(文学部教授兼情報
科学研究所副所長)

情報科学研究所は機構の上では昨年(昭和43年)の4月に発足したのであるが、後述のような理由により、実際の活動に入ったのは12月からといわなければならない。本年4月発足を予定されている研究・教育情報センターとは名前が大変にまぎらわしいことになってしまい、多くの方々には両者を混同しておられるのではないかという気がする。本稿でも、以下、情報科学研究所の方を「研究所」、研究・教育情報センターの方を「センター」と呼ぶことにし、まず、研究所設立の由来、現状、将来のビジョンとあわせて、センターとの関連について少し気楽な形で、私見を述べることにしたい。

もう数年以前のことになるが、管理工学科の山内二郎教授がIBM社には使用済みの大型電子計算機を大学に譲渡あるいは無償貸与するプロジェクトが存在し、欧米では既に実行に移されているという情報をキャッチされた。以来、われわれは日本でやがて不用になるであろう三基の7090システムの獲得を目ざして運動を開始した。自慢になることかどうかわからないが、おそらく日本では最も早い運動であったと思われる。けっきょく、いろいろな曲折を経て、早稲田と青山学院と塾の三大学に7040システムが無償貸与されることがきまったのは昭和43年で、早稲田、青山学院に

は相次いで導入された。一方、最初から音頭をとってきた塾の方は、設置箇所の用意が整わないため、昨年(昭和42年)の11月末になってやっと搬入の運びになったのである。これが7040導入の顛末で、その間、多くの方々の御尽力がなければわれわれの運動は実を結ばなかったであろう。特に今は退職された山内教授、日本IBM社の椎名副社長(塾員)の御協力はこれを忘れることはできない。

塾では昭和5年、小型とはいえ、トランジスタ計算機K1を自ら作製し、その後、電子計算機の利用技術(ソフト・ウェア)は管理工学科の一つの柱となっており、工学部ではTOSBAC 3400が使用されてきた。一方、三田の産業研究所にも、萩原吉太郎氏(塾員)の御援助でIBM1620を導入されている。それらの計算機は、勿論、研究にもフルに活用されたが、塾内事務処理の一翼を担ってきた。入試事務の一部に3400が使用され、給与計算は1620で行なわれたので、給与明細書が細長い紙に印字されるようになったのはそれ以来のことである。また、医学部でも病院管理学教室を中心に計算機の試験的使用がくり返されている。こういう風に塾内各所に相当の施設と有能な人材とが散在していたので、これらを統合し、更に前記の7040を加えて、ここに研究所が発足したのである。したがって、研究所の目標の一つは、塾全体としての電子計算機の最も有効な利用、その施設の最も効果的な



改善、拡張を図ることにある。電子計算機は現在、最も進歩の著しい機器で、しかも、極度に高価であるから、時勢にとり残されないよう努めることは、公私立を問わず、日本の大学にとって大問題である。そのことは容易に想像して頂けると思う。米国では、政府援助や計算機メーカーそのもの協力により、有力大学にはいち早く最新型の機種が設置されるのであるが、日本においては、残念ながら、一般企業と大学一般における計算機施設に関する格差は著しい。塾に大型機を備えたいと願う意図の中には、研究機関としての見栄もなくはないことは率直に認めるが、後述のように、電子計算機におけるレベルの差は決して単なる量の差ではなく、それはまさに質の差になるからである。単に何倍か余計に時間のかかることさえ我慢すれば、ともかく同じことがやれるというのではなく、一方でできることが他方ではできないからである。

研究所の第二の目標は、勿論、研究にある。ただし、何を研究するのか、という点が大切で、電子計算機を中心とした研究所のくせに情報科学研究所とまぎらわしい名前を名のしたのは、電子計算機は決して、「計算」だけを行なうものではなく、広く「情報処理」一般を行なうものであり、研究所はその利用技術の研究するからに他ならない。筆算では到達できない数式の解を求めるために計算機が必要だという研究者の数は、塾内において、比較的限られたものであるかも知れない。加える演算は簡単だが、莫大な量のデータについて計算を行なうために計算機を用いたいという研究者となると、その数は相当なものになるであろう。しかし、われわれの考えている可能な利用者はこのような計算のための利用者だけではないので、できるならば、計算以外の目的にも計算機の広汎な用途を開発してゆきたいと願っている。図書館に関連した例について述べるとすれば、圖書の管理と情報検索とに対する利用があげられるであろう。紙書の関係から情報検索についてのみ述べる。その専攻分野が何であれ、研究者、学生にとって、自分の知りたい問題がどの書物、あるいは、どの雑誌のどこにあるかを知りたいというのは切実な願いであろう。これが情報検索の問題である。計算機は数字ではなく、言葉で書かれた情報もこれを記憶に収めることが可能で、与えられた問題に関連する情報をその中から自動的に探し出すという作業を行なうことも、適当なシステムさえ組まれていれば、やはり可能である。医学文献に関する文献の蒐集と検索の世界的なシステムに MEDLARS と呼ばれるものがあり、日本では北里図書館が米国の本部（国

立医学図書館）との連絡所になっていることは御承知の方も少くないと思う。ただし、現在では計算機なしという状態で、さきにつれたように、われわれが始め IBM7090を狙ったのは、これがあればこの検索も実行に移せるからである。この狙いは実現しなかったが、しかし、7040でも試験的に検索が行えないものか、ということも研究所の当面している研究課題の一つなのである。こういうところからも、計算機のレベルの差が質の相違を生むことに想いをいたして頂きたい。また、次のような利用も考えられる。研究者にとって、論文を書いた場合、その巻末に引用文献のリストをつけるのは、結構、面倒な作業である。そこで、もし、自分の読んだ文献にはすべて番号をふりながら計算機の記憶に入れることにすれば、必要な文献の番号と、その時に要求されている書き方のスタイル——雑誌名の省略法、年号をどこに入れるかなど——を指定してやれば、計算機は瞬間にリストをタイプしてくれるというのはどうであろう。これは決して夢物語ではなく、米国の大学では一部実施に移されているはずである。ただし、このようなサービスを研究所に現在直ちに要求されるは困るので、多勢の利用者にこういう芸当ができるようにするためには、例えば、それ専用の大容量の記憶装置「ディスク」が必要で、現在はわれわれはそれをもっていない。しかし、利用者、関係者全員の協力で、早くそういう装置を備えるようになりたいものである。また、電子計算機は装置だけあっても駄目なので、それを動かす利用技術が非常に面倒なものである。これは装置のどの線を結ぶか、どのスイッチをおすかという問題ではなく、与えられた課題を分析し、それに応じた計算機の動かし方という解を求める一つの研究が必要で、こういう研究を高度なレベルで遂行することが研究の目標という次第である。

研究所の第三の目標は、電子計算機に関する教育とサービスとである。これからの世代にとって利用技術に対する一般的認識は、どの学部どの学生にとっても、不可欠の常識であろう。しかし、その習得は、自動車の運転や外国語の会話と同じく、実物なくしては、そしてまた、それを実際に用いる機会に恵まれずしては、これを充分に行なうことは難しい。研究所は塾生にも、教員にも事務員にもできるだけ汎く教育コースを設ける予定で、去年12月からその一部をスタートした。また、計算データ処理などに、できるだけ低廉な経費で計算機を利用して頂くことになっている。ただし、原則として、プログラミングとカード・パン

チングは各自が行ない、計算機の操作はその専門家にまかせるという方針でゆく。これは多くの大学でとっている方式で、それだけに、教育コースの普及が必要なのである。研究所は日吉の第七校舎の地階に本拠をもつが、現在、小金井の計算センターと三田の計算機室（西校舎地階）に支部がある。日吉、三田、小金井、四谷などキャンパスが四散していることは塾の泣きどころであるが、その間にできるだけ頻繁に巡回便を設ける予定であるから、上述の方針であれば、計算機が手許になくとも、どの利用者にもほぼ公平なサーヴィスがゆきとどくであろう。研究所は利用とプログラミングに関し相談員を本部と各支所におく予定で、図書館と同じく、「万人に気楽に利用される」ように

なるのが理想といえよう。しかし、これまた図書館と同じく、充実した施設を備えるには莫大な費用を要することも事実で、それだからこそ、研究所は汎く利用されなければならないのである。

最後に、センターと研究所との関係について一言述べたいところであるが、センターも未だ完全に形を整えておらず、研究所もその本格的活動はこの4月からという段階にある今日、正直のところ筆者にも未だ見当がつかない。唯一ついえることは、お互にどの学部にも属していない利用者のための塾の機関だということ、両者の協力を緊密にするのは両機関の関係者の責任であるが、両者をして充分にその機能を発揮させることは利用者全体の問題なのである。

情報センター出版物

文献シリーズ

- No. 1 E E C (ヨーロッパ経済共同体) に関する文献目録, 1963年—1968年10月
- No. 2 外国企業の日本進出に関する文献目録, 1963年—1969年5月
- No. 3 The bibliography of Nationalism in Tropical Africa, 1957—1968
- No. 4 地域研究 (Area Studies) 文献目録, 1958年—1968年
- No. 5 中ソ論争文献集, 1963年—1968年
- No. 6 アメリカの対アジア政策に関する国内文献目録, 1963年—1969年7月
- No. 7 日中関係 (政治・経済) 文献目録, 1962年—1969年
- No. 8 アメリカの対アジア政策に関する外国文献目録, 1967年—1969年
- No. 9 企業合併に関する外国文献目録, 1967年1月—1969年9月

この文献シリーズ御希望の方は研究室3階参考係にお申し込み下さい。

業務マニュアル

三田情報センターテクニカルサービス部マニュアル
1970年4月

第1篇 収書課図書収書業務マニュアル

第2篇 収書課逐次刊行物収書業務マニュアル
(準備版)

第3篇 整理課業務マニュアル

マニュアル御希望の方には実費にて頒布致します。

慶応義塾大学研究教育情報センター本部事務室
に御申込み下さい。

理工学情報センター計画の概要（案）

矢上台新工学図書館

昭和44年1月31日
昭和45年1月7日（修正）

I 理工学情報センター（矢上台新図書館）

の任務

1. 理工学に関する各種の情報の探索・収集・整備・利用・伝達等の便宜を提供することにより養塾における理工学の研究ならびに教育の能率向上に奉仕する。
2. 塾外，理工学分野の研究・教育機関一般に上記に準ずる情報サービスを行ないその研究活動を援助する。

II 業務の重点

1. 研究者の研究情報収集の労力をできるかぎり節減をはかる。
2. 情報サービスの面から，教材の充実，教育方法の改善，教育の効率化に助力する。
3. 情報サービスの面から，学生の自習効果の向上に助力する。
4. 国内および国際間の，理工学情報網を整備し，情報の相互利用体制の確立を計る。
5. 旧藤山工業図書館の業務を継承し，全蔵書の閲覧および特許庁の指定委託図書館としての機能を整備する。
6. 塾内外の研究者・研究機関ならびに産業界に対して，迅速かつ的確な情報提供活動を行なう。
7. 有能な情報専門職（司書・情報科学者）の養成に協力する。
8. 国内および国際間の書誌調整活動に協力する。

III 業務の内容および実施計画

業務は次の三期に分けて逐次拡充をはかる。

第1期（開設当初）

第2期（" 3年後）

第3期（" 5年後）

第1期（開設当初）

1. 資料集積
 - (1) 理工学に関する単行書・モノグラフ・会議録・ペーパー類
 - (2) 理工学に関する学術雑誌
 - (3) 理工学系大学の研究報告・博士論文・修士論文
 - (4) 政府刊行物・テクニカル・レポート・企業体の研究報告
 - (5) 辞書・百科事典・叢書・ハンドブック・便覧・データブック

- (6) 特許資料
- (7) 工業規格
- (8) 索引・抄録・速報誌
- (9) 視聴覚資料（フィルム・レコード・テープ・Teaching Machine）
- (10) レファレンス・ブック
2. 前項各資料の供覧供用（貸出しを含む）
3. 前項各資料の複写サービス
4. 内外の相互貸借による必要文献の入手
5. レファレンス・サービス（対象は主に教員）
 - (1) 引用文献名の確認調査
 - (2) 簡単なデータ等の検索
 - (3) 人名・研究機関などの調査
6. 印書サービス
 - (1) 英文タイプ
 - (2) 和文タイプ
7. 最新情報の定期的告知（コンテンツ・サービス）
8. 視聴覚資料・教材作成サービス

第2期（開設3年後）

ほぼ3年後には，開設初期に開始する資料集積の効果（充実したコレクションの実現）を基盤に以下のサービスを実現させる。

1. レファレンス・サービスの回答範囲の拡大（質の向上）
2. 不成功実例の集積とその検索手段の作成
3. 文献探索（必要情報が含まれている論文の探索）
 - (1) 過去から現在までの特定主題の網羅的探索
 - (2) 最新情報の定期的告知
 - (3) 特定主題の特定文献の探索
4. 所蔵論文の検索手段の作成
5. 情報網の整備

理工学に関する内外情報網を確立し，図書館にない文献を一層短時間のうちに確実に入手し得るようにする。
上記各項を良質かつ能率的に処理し得る人材の育成

第3期（開設5年後）

1. 最新の科学技術情報をより速く，より正確に利用者へ
 - (1) 電子計算機による文献探索
 - (2) 電子計算機による最新情報の伝播

2. 翻訳サービス
3. 抄録・索引の作成
4. 国内および国際間の書誌調整活動へ協力する。

2階 学生閲覧室, 自学自習室, 特殊資料室及び印刷室, 書庫, 館長室, 事務室

IV 建 物

構 造 鉄筋コンクリート造 3階建

延面積 1483.6m² (450坪)

用 途 3階 会議室兼講義室

V 設備備品

表に示す。

(文責: 大沢)

1階 研究者用閲覧室, 整理室, 雑誌閲覧室, 参考資料室 (設計図参照)

三田情報センター課係案内

三田情報センターの発足に伴い、従来の研究室学部図書係、特別図書係および図書館諸課係など次のように変更になります。

旧 名 称	新 名 称	業 務 内 容 概 略	設 置 場 所	電 話 内 線
研究室 学 部 図 書 係	総 務 課	庶務, 図書資料支払関係	新研1 F 北側	3412, 3413
	収書課(図書)	学部・図書館図書の受入	"	3414, 3415
	収書課(逐次刊行物)	学部・図書館の受入	新研3 F 南側	3403, 3404
	整 理 課	学部・図書館図書の整理	"	3100, 3401 3402
	閲覧課(第二閲覧) 情報サービス担当	利用・貸出, 文献複写受付 レファレンスサービス	新研3 F 北側 "	3400 3417
研究室経商資料室	経 商 資 料 室	選書関係, 利用・貸出, レファレンスサービス	新研5 F	3410
研究室法学資料室	法 学 資 料 室	"	新研6 F	3411
研究室文学資料室	閲覧課(第二閲覧)	"	新研3 F 北側	3400
研究室特別図書係	収書課特別図書係	特別図書の受入	新研1 F 北側	3416
図 書 館 総 務 課	総 務 課	庶務, 図書資料支払関係	新研1 F 北側	3412, 3413
図 書 館 洋 書 課 図 書 館 和 漢 書 課	収 書 課	学部・図書館図書の受入	新研1 F 北側	3414, 3415
	整 理 課 特 殊 資 料 担 当	学部・図書館図書の整理 和・漢・洋の古書, 貴重書利用	新研3 F 南側 図書館1 F	3100, 3401 3402 2401
図 書 館 閱 覧 課	閲覧課(第一閲覧)	利用・貸出	図書館(新)3 F	2407
図書館参考調査課	情報サービス担当	レファレンスサービス	図書館(新)3 F	2408
			新研3 F 北側	3417
図書館定期刊行物課	収書課(逐次刊行物)	学部・図書館の受入	新研3 F 南側	3403, 3404
	雑 誌 コ ー ナ ー	図書館逐次刊行物の利用	図書館(新)4 F	2409
図書館複写印刷係	複写印刷センター	文 献 複 写	図書館地下1 F	2412
			新研3 F 北側	3405

附表 1

理工学情報センターの業務内容

新 図 書 館 の 業 務	内 容 (必要施設)
<p>文献情報サービス 最新情報を発生のつど利用者に知らせるサービス 特定の主題の情報を過去から現在まで網羅的に探索 特定主題の特定情報を調査するサービス</p>	<p>レファレンス・コーナー (辞書・便覧・ハンドブック類の配架) 参考業務・調査室 (索引・抄録・書誌・文献目録等の配架)</p>
<p>技術情報サービス (特許庁指定委託図書館としての業務の拡充) 特許情報サービス その他の技術情報サービス 閲覧サービス 文献の貸與・貸出し 即答レファレンス 相互貸借・海外文献取寄せサービス 学習用指定図書を整備</p>	<p>特殊資料コーナー (特許仕様書・テクニカルレポート・製品カタログ・会社関係出版物・パンフレット類の配架) 新着雑誌コーナー (内外の新着雑誌1,200種展示) 目録コーナー 閲覧室・マイクロ資料閲覧室 (学生110席・教員用45席) 書架コーナー・指定図書コーナー</p>
<p>視聴覚資料・教材作成サービス 教育用資料の作成 (テキスト編集印刷・スライド、フィルムの編集と作成授業ノートの整備等) 文献複写サービス 文献資料の即時複写提供サービス</p>	<p>視聴覚資料・教材作成室 (オフセット印刷機1, 印刷輪転機1, 原版作成機1, マイクロ・カメラ1, マイクロ自動現像機1, 引伸機1, スライド・プリンター1, マイクロフィッシュリーダー2, マイクロプリンター1 乾燥機, マイクロフィッシュエキヤビネット) 複写コーナー (Xerox 720型2台, リコピー1台, マイクロカメラ1基, Xerox 1385型, 暗室, リーダー)</p>
<p>印書サービス 和文タイプ 欧文タイプ 他 学位論文の印書製本</p>	<p>印書コーナー (和文タイプ1台, カナタイプ1台, 欧文タイプ7台)</p>
<p>翻訳サービス (学内研究成果のみ外国語翻訳)</p>	<p>翻訳室</p>
<p>資料処理 資料収積 (選択・発注・受入れ・交換・寄贈) 分類・目録・索引作成 ファイリング 総合目録の作成</p>	<p>整理室 (テレックス設置, 書架目録ケース) 事務室</p>
<p>管 理 企画・人事・財務・広報・文書 他</p>	<p>会議室兼講義室 館長室兼応接室</p>
<p>その他</p>	<p>職員更衣室 (ロッカー・洗面所・湯茶道具) 共通部分 (機械室・ロビー・廊下・便所 他)</p>

附表 2

理工学情報センター（開設時）設備備品一覧表

品名種別	数量	単価	合計価格	設置場所・用途
書架				
複式 5連	8	86,900	695,200	開架書庫エリア
複式 4連	6	70,500	423,000	〃
単式 5連	2	51,900	103,800	〃
低書架（複式3段2連）	5	30,000	150,000	レファンス・コーナー
オープンファイル 複式5連	5	138,400	692,000	新着雑誌コーナー
〃 複式4連	3	111,700	335,100	〃
〃 単式7連	1	112,700	112,700	〃
複式 7連	15	119,700	1,795,500	書庫
単式 8連	1	80,100	80,100	〃
単式 6連	1	61,300	61,300	〃
複式 3連	6	54,100	324,600	単行本閲覧室
単式 3連	1	33,100	33,100	〃
単式 5連	1	51,900	51,900	事務室（整理室）
単式 4連	1	42,500	42,500	〃 〃
単式 2連	1	23,700	23,700	〃 〃
単式 4連	1	42,500	42,500	〃（参考係）
単式 2連	1	23,700	23,700	〃 〃
単式 6連	2	61,300	122,600	〃（2階）
小計			5,113,300	
机				
閲覧机 4人用	12	19,500	234,000	雑誌閲覧エリア, 自学自習室, 索引室
〃 6人用	10	33,000	330,000	単行本閲覧室, 自学自習室
〃 1人用キャレル	48	18,500	888,000	
貸出受付カウンター	3	273,500	820,500	
事務机	10	23,800	238,000	
参考業務用机	2	31,300	62,600	
目録作業用机	2	31,300	62,600	
館長用机	1	74,900	74,900	
スタッフ・ルーム用テーブル	2	14,000	28,000	
補助机	4	14,000	56,000	雑誌受入
作業机	3	31,300	93,900	受入, 複写, 教材印刷
ブラウジング・ルーム用机	3	10,000	30,000	
小計			2,918,500	
椅子				
閲覧用椅子	156	4,500	702,000	
事務用椅子	17	12,500	212,500	
ブラウジング用長椅子	4	35,000	140,000	

ブラウジング用1人用	10	12,500	125,000	
応接用3点セット	1	64,800	64,800	
館長用椅子	1	34,500	34,500	
スタッフルーム用椅子	8	6,000	48,000	
補助椅子	10	6,000	60,000	接客用、スタッフ・ルーム用
小計			1,386,800	
ファイリング備品				
目録カード・ケース	15	48,700	730,500	閲覧カード用
〃 ベイス4本足	15	4,500	67,500	事務用カード収蔵力20,000枚
ユニット式カード・ケース	20	1,800	36,000	事務用
B4判4段キャビネット	6	25,000	150,000	事務用、参考業務用
〃 2段キャビネット	6	15,500	93,000	雑誌係事務用
ビジブル・コーダー	8	20,000	160,000	雑誌受入記録用及び閲覧用
ビジブル・スタンド	2	20,000	40,000	
サブライ・キャビネット	4	17,000	68,000	事務室・複写コーナー機械保管用
伝票ファイルキャビネット	4	7,400	29,600	事務用
小計			1,374,600	
教材印刷用機材				
オフセット印刷機	1		1,280,000	コンテンツ・シート、教材作成用
印刷輪転機	1		315,000	〃
原版作成機	1		1,430,000	〃
電動紙とじ機	1		30,000	〃
断裁機	1		75,000	〃
コレクター	1		195,000	速報編集
小計			3,325,000	
マイクロ複写関係機材				
マイクロ・カメラ	1		1,500,000	製図図面・文献複写用
マイクロ・自動現像機	1		930,000	〃
マイクロ・引伸機	1		450,000	〃
スライド・プリンター	1		5,000	スライド教材作成用
マイクロ・フィッシュ・リーダー	2	150,000	300,000	マイクロ・フィッシュ 閲覧用
マイクロ・プリンター	1		560,000	マイクロ・フィッシュ 複写用
乾燥機	1		60,000	マイクロ引伸教材乾燥
マイクロ・フィッシュエ・キャビネット	1		24,000	マイクロ・フィッシュエ20,000枚収容
リコピー	1		122,000	
小計			3,951,000	
印書サービス用品				
英文タイプライター（ヘルメス）	5	112,000	560,000	印書サービス及び目録用
電動タイプライター（英文）	1	230,000	230,000	〃
露文タイプライター	1	112,000	112,000	〃
和文タイプライター	1	143,500	143,500	〃
かなクイプライター	1	99,000	99,000	事務用
タイプ・スタンド	9	8,000	72,000	〃
小計			1,216,500	

その他					
ブック・トラック	6	20,000	120,000	図書運搬用	
ラインデッキ	1	15,000	15,000	資料室内用	
回転帳簿立	1	4,000	4,000	貸出カウンター用	
ロッカー (3人用)	7	16,000	112,000	職員用	
ロッカー (1人用)	1	10,800	10,800	館長用	
告知板	2	8,000	16,000	図書館入口	
回転黒板	1	23,000	23,000		
傘立 60人用	2	40,000	80,000	図書館入口	
電動加算機	1		100,000	事務統計用	
計算機	1		350,000	"	
新聞閲覧台	2	20,600	41,200	単行本閲覧室, 学生用	
アトラス・スタンド	1		21,000	" "	
辞書台	1		14,000	" "	
ブック・ポスト	3	64,000	192,000		
小 計			1,099,000		
製本修理器具					
裁断機 (電動)	1	300,000	300,000	印刷室	
カッター (小型)	1	25,000	25,000	"	
穿孔機 (電動)	1	35,000	35,000	"	
其他修理用器具	1	15,000	15,000		
小 計			375,000		
視聴覚器具					
16mm映写機	5	270,000	1,350,000	特殊資料室	
8mm映写機	5	89,000	445,000	"	
35mmスライド映写機	5	65,000	325,000	"	
テープレコーダー	5	50,000	250,000	"	
スクリーン	5	30,000	150,000	"	
小 計			2,520,000		
会議室設備及び備品					
会議用テーブル	18	25,000	450,000		
" 椅子	54	10,000	540,000		
小 計			990,000		
合 計			24,269,700		

(注) 価格はすべてカタログプライス

主要施設の機能	資料展示及び収蔵力	閲覧座席数
新着雑誌コーナー	1,148種	教員用 45席 学生用 110
単行本閲覧室	4,680冊	計 155席
書庫エリア	26,880	
開架書架	16,560	
レファレンス・コーナー	1,000	
抄録・索引	2,400	
計	51,520冊	

医学情報センター計画とその実現

外 山 敏 雄

(北里記念医学図書館長)

天 野 善 雄

(同 運用課)

はじめに

義塾に於ける研究・教育情報センター構想は、着々とその成果をあげつつあり、本年4月には、三田情報センターを発足させる運びとなった。医学部図書館に於いても、本年10月発足を目標に、いよいよ医学情報センターへの移行期をむかえようとしている。この重要な局面に際して、単なる名称変更にと留まらず、真の医学情報センター活動を行う為に、我々はどうに対処すべきであろうか。現状の諸サービスを分析した上で、情報センターとしての活動に不足しているもの、付加すべきサービス等の在り方を検討する必要があるだろうか。本稿は、このような観点から、医学部図書館の現状を踏まえ、合わせて情報センター化への可能性を解明していこうとするものである。

医学情報とは

医学情報とは一体何か。医学情報センターを語る上で、これは基本的命題である。従来の図書館活動の中で、一般に情報サービスと呼ばれてきたもの、例えば文献探索、索引、抄録といったサービスは、すべて文献(殆んどが雑誌論文である)を中心に考えられている。いわばこれらのサービスは文献情報サービスと言える。医学の面では、医学に関する文献情報サービスにすぎない。

図書館諸サービスの発展過程を振り返ってみると、図書館は、第1に、図書資料そのものを利用者に提供することで、その存在価値を見出そうとした。これが貸出であり、複写であり、相互貸借である。第2に、図書資料に含まれている、特定の実事、データ等を探し出して利用者に提供するサービス、即ち参考サービスがこれに加わってきた。大学医学部図書館を中心とする日本医学図書館協会の加盟館に於て、提供出来るサービスは殆どこの範囲である。そして第3の段階で、既述した文献探索、索引、抄録といった一連の情報サービスと呼ばれる業務が台頭してきた。これらは文献情報サービスの一型にすぎないが、図書館の発展過程

からみれば、専門図書館活動としても充分納得のいくサービスと考えられている。

又第1、第2の段階も、これだけでは充分とは言えないが、文献情報を提供する上で、基本的に不可欠なサービスと考えている。

ところが、医学に於ける主要な利用者である医師の立場から見ると、図書館側で充分と考えられているこれらのサービスだけで、果して満足しているのだろうか。医学情報とは一体何かという命題は、ここでも図書館に問われるのである。

昨年7月から4ヶ月にわたって議論されてきた、医学部改革委員会による改革案が、このほど大学当局に上程された。この中に、従来から図書館側で練ってきたものと同名の、医学情報センターという考え方が提案されている。これは、基本的な5つの改革案の1つに数えられる程重要な課題と考えられているものである。そこでは医学情報とはおおよそ次のように考えられている。

“医学情報は、医師と患者との出会い、医師と医師との出会い等で発生している。従って、医学情報が発生した時点の認識は、このレベル(著者注:文献情報のレベルよりも発生源に近いレベル)に置くべきである”¹⁾

従来の図書館で扱われる文献情報とは、研究者が、一定の研究成果を、例えば雑誌論文として公開したものを指すが、ここに表われるものは、殆んどすべてが陽性成績である。研究者の本当に知りたい情報は、これだけでなく、むしろ陰性成績に求められる。この考え方の基本には、従来の図書館による情報サービスだけでは、利用者の最終的な満足を得るには至らないであろうこと、即ち図書館サービスに第4段階があることを示唆するものと考えられる。我々が医学情報センターを志向する時、やはりこの考え方を無視するわけにはいかない。そこで医学部では、図書館を中心に、医学情報センター検討委員会を昨年11月に発足させ、真の医学情報を求めて模索する準備作業を開始した。

館外貸出	43,985 冊
相互貸借	貸 4,532 件, 借 3,256 件
学内複写	95,027 件

本年2月までに、この委員会も7回を数えるに至ったが、ここで検討された内容には、④カルテ管理の実状と動向、⑤症例検討会の実状と記録の統一、⑥学内研究会の実状と動向、等がある。

これらはすべて文献以前の情報であり、得られる情報も、必ずしも陽性成績だけでなく、陰性成績も含まれる。但し取扱う範囲は、当面義塾の医学部内に留めて考えられている。文献以前のナマに近い、こういった情報は、今迄大学では余り活発に扱われていないが、企業体では以前から、社内資料、所内資料といった形で取扱われている。大学がこの範囲を取扱っていないのは、図書館活動が、研究活動と密着して行われていないということにもつながる。まして医師の立場からこの問題を提起されたのであれば、医学部図書館としては当然この方向に進むべきであるとする。医学情報を、単なる文献情報でなく、ナマに近いレベルまで掘下げて考えることによって、はじめて名実ともに医学情報センターへの移行が可能であると考えようになった。

医学部図書館のサービス

医学部図書館のサービスの現状は、図書館サービス発展過程のうち第3段階にあたる。つまり資料サービスから参考サービス、そして文献情報サービスまでを守備範囲としている。次にこれらのサービスを、統計的数値を例証しつつ詳述してみたい。

1) 資料サービス 既述した日本医学図書館協会は、発足して40年余経ているが、この間一貫してとってきた基本施策は、文献相互貸借活動である。医学部図書館は、この活動を強力に推進してきた図書館の1つである。従って相互貸借業務は、昭和43年度統計でも分る通り、図書館の重要な業務となっている。又館外貸出は、複写技術の発達に伴い、年々減少しているとはいえ、1日130件弱の数値を示している。これは三田本館の貸出と比較すれば極めて僅少であろうが、医学図書館としては、かなり高い数値を意味している。複写は、マイクロフィルムを含めて1日280件、枚数にして約2,000枚を処理している。このように資料サービスは、それぞれが非常に高い利用数を示している。資料サービスの重要性は、文献情報サービスの基礎になっている点である。つまり一連の文献情報サービスで提供されるのは、文献そのものでなく、殆んどが文献の書誌的事項にすぎない(reference retrieval)。従って利用者が、実際に情報を読取ることの出来るサービス、資料そのものを手にすることの出来るサービ

ス(document retrieval)が重要な意味を持つと認識している。

2) 参考サービス 図書館の発展過程では、便宜的に第2の段階と考えたが、むしろこのサービスは、第1の要素も第3の要素も含んでいると考えている。医学部図書館の参考サービスは、④参考資料を駆使してquick referenceを行うインフォメーションと、⑤個人の研究者の特定主題について、過去の文献を網羅的に探索する文献調査と、⑥最新文献を探索する継続調査とに分けらる。⑥及び⑦の活動は、④の変形もしくは拡大したものと言える。④の活動が、本来参考サービスの活動とみなされているが、医学部図書館のそれは、⑥の活動に最も比重がかけられている。文献調査及び継続調査は、一般には文献探索と呼ばれる情報サービスの一種である。文献調査を開始したのは、今から約10年前であるが、このサービスが、今日の医学部図書館文献情報サービスの源流をなすものと考えられる。現在文献調査の年間処理件数は500件を越えている。なお、⑦の継続調査は、個人の利用者の特定主題を、図書館側で認知して、一定間隔を置いて最新文献を提供するサービスである。これは、マニュアルで行なうSDI*サービスとも言えよう。

3) 文献情報サービス 既述した通り、医学部図書館の文献情報サービスの源流は、参考サービスの文献調査に求めることが出来る。この文献調査、特に継続調査と非常に類似したサービスに文献分析がある。このサービスは、個人ではなく研究グループ、学会等で研究している主題について、最新文献を提供しようというものである。

個人の利用者の研究主題ではないので、文献調査で扱われる主題よりもずっと大きい。現在は8つの主題を扱っているが、主題が大きいことにより、人手も非常にかかるので、簡単にはこの数を増やすことが出来ない。文献分析も一般には文献探索の範疇に入るサー

* SDIとは Selective Dissemination of Informationの略で、特定の利用者層の、個々の研究主題を予め登録しておき、適合した最新文献を探索して提供するサービスのこと。主にコンピューターを使つてのサービスシステムが盛んである。

ビスである。文献情報サービスの中には、これ以外に抄録を中心にしたサービスがある。日本原子力研究所(以下原研)の出版物に Nuclear Science Abstracts of Japan という海外向け抄録誌がある。この中の医学に関する論文を選択して、抄録を作成し、英語に翻訳して原研へ提供するプロジェクトを持っている。又、米国大気汚染情報センター(以下 APTIC) に対して、日本の大気汚染関係の文献を選択、抄録、翻訳して提供するプロジェクトも、現在契約実行の段階をむかえようとしている。原研、APTIC の業務の中には、抄録した結果を翻訳する部分が共通にある。又利用者の中にも翻訳希望が、潜在的に相当数ある。こうした要求を処理する為に、翻訳は文献情報サービスに欠かすことが出来ない。翻訳は、従来図書館業務とは考えられていなかったが、今日では、少なくとも専門図書館必須のサービスと考えるのが妥当であろう。

最後に、医学部図書館を、日本を代表する医学図書館にした最大のプロジェクトとして、米国国立医学図書館(以下 NLM) が開発したメドラース(医学文献分析検索システム)の索引作業を挙げなければならない。これは4年前に、当医学部と NLM との間に取交わされた契約に端を発している活動である。索引には、利用者に直接サービスする性質はないが、索引の可否によって、探索の可否も決まってしまうという、非常に重要な意味を含んでいる。メドラースは、医学文献を、MeSH (Medical Subject Headings) と呼ばれるシソーラスを使って索引し、これをコンピューターにインプットする。インプットされた文献を、利用者からの要求に応じて、一定の探索式をたて、機械的に探索しようというものである。又1カ月に一度インプットされた文献を打出すことによつて、医学に於ける世界的索引誌 Index Medicus を作成している。

医学部図書館に於けるメドラースの業務は、先づ日本で発行される医学雑誌を、すべて医学部図書館(正式には NLM 代理部と称している)で収集する。そのうち予め指定されている雑誌(現在は132種)に対して索引が行なわれる。索引は、雑誌論文を読み、論文に含まれている内容を、MeSH で使われている索引語に置き換える作業である。現在年間12,000件から13,000件の論文を索引している。医学部図書館で行なっている索引は、メドラースの入力部分にあたるが、出力部分にあたる探索を、科学技術庁、日本科学技術情報センター等と組んで、現在実験を行ないつつある。

医学部図書館の索引は、メドラースのそれに代表されるが、その他にも、原研や APTIC のプロジェクト

の中に、索引の部分が含まれている。従つて索引者(Indexer)の養成は、医学部図書館の急務と考えられている。

以上文献情報サービス面から医学部図書館の現状を述べた。次に、医学情報センターへ移行していく為に、現状では何が足りないのか、又情報センターとはどのような姿であるべきなのかについて考えてみたい。

医学情報センターの活動

医学情報センターの役割を考える時、2つの側面が考えられる。一方は塾内に於ける医学情報センターであり、他方は日本に於ける医学情報センターである。この両者の役割を果す為に、別々の組織を作る必要があるわけではない。ただどこに目標を設定して活動するかの違いである。医学部図書館は、現状でもメドラースの索引を引受けている関係上、日本に於ける医学情報センター的役割を余儀なくさせられている。従つて日本の医学情報センターを目標とすることは、決して気負いでも無い。又だからといって塾内に於ける役割を半減させたりおろそかにしたりするものでもない。むしろ、日本の医学情報センター的役割を堅持することによって、塾内の活動を効果的にすると考えられる。

現状の医学部図書館の姿から、医学情報センターとして欠けている点あるいはあるべき姿を想定してみると、以下の諸点を挙げることが出来る。

- ① 医学部内情報の整備
- ② 必要に応じたサブセンターの設置
- ③ 職員の卒後教育の拡充
- ④ 情報学テクノロジーの開発
- ⑤ 機械化を中心にした業務開発
- ⑥ 医学教育と直結したサービスの整備
- ⑦ 国内医学・情報網に対する指導性の確立
- ⑧ 国際的医学情報システムとの協力体制強化
- ⑨ 業務分析機能の確立
- ⑩ 管理職の機能分化

以上について、以下に詳述を加えてみたい。

① **医学部内情報の整備** 医学情報とはという命題に対して、はからずも医師側から解答を得た形になった。現在の医学情報センター検討委員会に於ける焦点は、医師側に症例検討会の記録をとることを義務づけ、これを統一して記録出来ないかという点にある。統一された記録を、情報センターが、しかるべき件名によってファイルしておけば、既存の文献情報からは

得られない医学情報を得ることが出来る。この問題は塾全体の医学情報センター構想に先行して討議され、なおかつ利用者である医師側の積極的参加もあることから、図書館が情報センターに移行した時点では、かなり具体化するものと思われる。

② 必要に応じたサブセンターの設置 図書館を情報センター化する意図の中には、そこで行なわれる業務の積極化が含まれている。このような点から言えば、センター内業務については、特定部課、セクションといった静的な形態だけでなく、必要があれば、積極的にセンター内のサブセンターを設置することも、情報センター活動としては必要である。現状でサブセンターと呼べそうなものは、タイピングを集中化したプロセスセンター、医学部内の映画フィルム、館内の視聴覚資料を集中化したフィルムライブラリーの存在がある。情報センターになった場合、どれをサブセンター化するかは定かではないが、強いていえば、翻訳や複写業務はサブセンターとして、医学部内で未組織的に行なわれている同種の業務を集中化することによって、より効果的な活動が期待出来る。

③ 職員の卒後教育の拡充 情報センター職員は、当然のことながら大部分専門職たることが要求される。その為には、司書資格を有した職員が本来望ましい。しかし有能な司書職を充分に確保することは困難である。又仮に司書職であったとしても情報センター職員として活躍する為には、十分な卒後教育が必要とされる。より高度の専門職能と維持・向上させて行くための教育・研修を組織的に行なう為には、どうしてもその計画を専門的に考える機能が要求される。医学部図書館は、最近この問題を解決する為に、教育委員会を発足させた。この委員会は、医学部図書館職員の教育・研修問題全般を検討する為のものである。又従来教育・研修の機会を与えるにすぎなかったものに対して、その評価をすることも合わせて検討していくことを考えている。

卒後教育カリキュラムは、各種レベルに応じて、以下のことを考えている。

- a 専門主題に関する教育
- b 実務に則した図書館・情報学に関する教育
- c コンピューターに関する教育
- d 外国語に関する教育
- e 機関誌の編集・発行
- f 各種講習会受講、図書館・情報学科受講、海外留学等

以上のうち、特に b は重要である。これは医学部図

書館でも未だ実施されていないが、職員のすべてが司書資格を有しているわけではないので、これらの職員に、業務の何たるかを理解させる必要を痛感している。本年4月以降には実施する予定である。

④ 情報学テクノロジーの開発 図書館・情報学は学問体系として未分化である。それだけにこの分野の技術は日進月歩である。現状でどのように良いサービスを提供しようとも、その背景になる技術開発が行なわれていなければ、すぐに陳腐なサービスになってしまう。従って常に情報学のテクノロジーを調査開発する機能を必須と考える。

⑤ 機械化を中心とした業務開発 ④の問題と関連しているが、今やコンピューターなしで情報学は語れない程、コンピューターは我々の分野に入り込んでいる。それだけに、情報学テクノロジーの中でも、機械化だけは特別に扱う必要がある。各国の情報学のエキスパートの中には、相当数のコンピューターライブラリアンと呼ばれる人達も存在している。大きなデータベースを持った国際的情報システムの多くは、次々と機械化に踏切っている。従ってこれからの活動は、否応なしにコンピューターの知識が必要とされよう。コンピューターの知識は、我々の領域ではないと考え、コンピューター側の人間にまかせっ放しにしたいのでは、必要なシステムを、効率よく設計することなどとても望めない。

業務の機械化には次の2通りの考え方がある。一つは、日常くり返し手作業で行なわれる house keeping 的なものの機械化。もう一つは、情報検索、いわゆる IR の機械化である。

医学部図書館は、現在この両者のプログラム開発を行なっている。前者は、雑誌の受入記録の自動化をはかった Serial Record Control System on Computer (SRCC) と呼ばれるシステムであり、後者は、KWIC, KWOC 索引を機械的に作成し、これを探索する Automatic Literature Indexing Searching System (ALISS) と呼ばれるシステムである。これらのプログラム開発は、たぶん職員に教育的色彩が強かったが、メドラー探索の実験をむかえている現在、いよいよ本格的なプログラムと接する機会が来ようとしている。

⑥ 医学教育と直結したサービスの整備 従来の図書館活動は、必ずしも医学部における教育と直結していたと言えない。全国の医学部で医学教育が問題になっている折柄、情報センターとしてもこの問題を直視していく必要を感じる。現在医学部図書館では、隔月刊で、医学教育文献速報を刊行しているが、これなど

は医学教育と直結したサービスと言えよう。米国では既に、ビデオテープを使った医学教育が行なわれていると言うが、例えば現在のフィルムライブラリーが、情報センターのサブセンターとして活動する場合、ここに各種臨床例のビデオテープを集中化し、必要に応じて利用に供する体制を組むことが出来る。このようになる為には、図書館側と教育者側との密接な交流をはかることが先ず必要であろう。

⑦ **国内医学情報網に対する指導性の確立** 日本医学図書館協会加盟館の大半は国立大学なので、私立大学である医学部図書館が、全国の指導的立場に立つことには難かしい面もある。しかし全国的な情報のネットワークを整備する為には、既存の、しかもある程度その可能性のある所が指導的立場をとることが必要である。従って、全国の協力体制、レベル向上をはかる為に、医学部図書館の不断的努力が要求されよう。

⑧ **国際的医学情報システムとの協力体制強化** メドラスをはじめとして、オランダの Excerpta Medica Foundation、米国化学会の Chemical Abstracts Service といった、大きなデータバンクを持った情報システムが、次々と日本への地域センター開発に乗り出そうとしている。このようなシステムに対して、すべて医学部図書館が一手に引受けるべきであるとは考えられないが、少くとも導入に際して、積極的な姿勢を堅持する必要がある。

⑨ **業務分析機能の確立** 日常業務の中には、業務改善の為に有効な、多くのデータが内在している。これを統計的に処理したり、分析したりすることは、業務の将来性を推測する要素ともなり得る。しかし現場にいる職員には充分なことは出来ない。従って業務の分析を専門に考える機能が必要となる。現場で2、3年経験した職員に対して経験したその業務を分析、整理する機会を半年程与え、又現場に戻るといった人事のローテーションが組めれば理想的である。

⑩ **管理職の機能分化** 情報センター組織がどのようなものになるか、その具体案は現在ない。しかし業務の複雑さは今よりもずっと増すであろう。又情報センターになれば、当然現在より木目の細かい管理が要求される。そうした場合、支部センター所長、副所長といった一部の人間だけですべてが掌握出来るとは思えない。既述した教育担当もそうであるが、企画、渉外、運営、人事、経理といった管理的機能は、いくつかに分化させてこれを実施すべきである。

以上の諸点が順調に作動して、はじめて医学情報センターとして満足すべきものと言えよう。現実問題として、すぐ取組める問題、非常に時日を要する問題と色々あるが、要は、我々自身の情報センターへの意識の持ち方次第であると考えられる。

終りに

以上、医学情報センター化を控えての諸問題を取上げてみた。医学部に於ける情報センター規模もそろそろ手をつける時期に来ているが、これらのうち多くのは、既に医学部図書館の中で、その方向が示めされつつある。又半ば空論で終りそうなものの中にはある。ただそれもこれも、情報センター発足時になってはじめてこれを問題にするのではなく、今のうちから来たるべき発足に対処すべきであると我々は考えている。

参 考 文 献

- 1) 慶應義塾大学医学部案改革委員会、医学部改革案 (2) 5. 医学情報センターについての改革案, p. 157—166, 1969
- 2) 立沢 寧, 医学情報センターへの提案, 三田評論 no. 685: 146—147, 1969
- 3) 津田良成, 医学文献情報活動の現状, 慶應医学 45: 219—225, 1968

文学におけるコンコーダンス

(図書館所蔵のものには請求記号を付してある)

Aristophanes

Dunbar, Henry. Complete concordance to the comedies and fragments of Aristophanes. Oxford, Clarendon Press, 1883. 342p.

Arnold

Parrish, Stephen Maxfield. A concordance to the poems of Matthew Arnold. Ithaca, N. Y., Cornell Univ. Press, 1959. 965p. (The Cornell concordance) M37-16-1

Baudelaire

Baudelaire. Les fleurs du mal. Concordances, index et relevés statistiques établis d'après l'éd. Crépet-Blin par le Centre d'étude du vocabulaire français de la Faculté de lettres de Besançon... [Paris] Larousse [196-] B950. 28-B7-2

Cargo, Robert T. ed. A concordance to Baudelaire's Les fleurs du mal. Chapel Hill. Univ. of North Carolina Press [c1965] 417p. B950. 28-B7-10

Bede

Jones, Putnam Fennell. Concordance to the Historia ecclesiastica of Bede. Camb., Mass., Mediaeval Acad. of America. 1928. 467p. [Mediaeval Acad. of America. pub. 1]

Bewoulf

Bessinger, J. B. Jr. A concordance to Beowulf. Ithaca, Cornell Univ. Press [c1969] 373p. (The Cornell concordance) B931. 02-B3-2

Cook, Albert Stanburrough. Concordance to Bewoulf. Halle, Niemeyer, 1911. 436p.

Blake

Erdman, David V. ed. A concordance to the Writings of William Blake. Ithaca, Cornell Univ. Press [c1967] 2vols. B930. 28-B7-2-1

Boethius

Cooper, Lane. Concordance of Boethius; the five theological tractates and the consolation of philosophy. Cambridge, Mass., Mediaeval Academy of America, 1928. 467p. (Mediaeval Academy of America. Pub. 1]

Browning

Broughton, Leslie N. & Stelter, Benjamin, F. Concordance to the poems of Robert Browning. New York, Stechert, 1924-25. 2vols. B61-117-2

Burns

Reid, J. B. Complete word and phrase concordance to the poems and songs of Robert Burns. Glasgow, Kerr, 1889. 561p.

Byron

Hagelman, Chrales W. Jr. & Robert J. Barnes. A concordance to Byron's Don Juan. Ithaca, Cornell Univ. Press [c1967] 981p. (The Cornell concordance) B930-28-B2-4

Young, Jone Dodson. A concordance to the poetry of Byron. Austin, Texas, Pemberton Press, 1965. 4vols. B930. 28-B2-3-1~4

Coleridge

Dogan, Eugenia ed. Concordance to the poetry of Samuel Taylor Coleridge. Gloucester, Mass., P. Smith, 1967 [c1940] 901p. B930. 28-C1-6

Collins

Booth, Bradford Allen & Jones, Claude E. Concordance of the poetical works of William Collins. Berkeley, Univ. of Calif. Press, 1939. 126p.

Cowper

Neve, John. Concordance to the poetical works of William Cowper. London, S. Low, 1887. 504p.

Dante

Fay, Edward Allen. Concordance of the Divina commedia. Camb. [Mass.] Dante Soc., Oxford Univ. Press, 1888. 819p.

Gordon, Lewis H. Supplementary concordance to the minor Italian works of Dante. Camb., Mass., the Dante Society, Harvard Univ. Press, 1936. 38p.

Sheldon, Edward Stevens & White, A. C. Concordanza dell'opere italiane inprosa e del Canzoniere di Dante Alighieri. Cambridge, Mass. Oxford Univ. Press. 1905. 740p.

Wilkins, Ernest Hatch & Bergin Thomas Goddard.

ed. A concordance to the Divine comedy of Dante Alighieri. Camb., Mass., Belknap Press, 1965. B970. 28-DI-5

Dickinson

Rosenbaum, Stanford Patrick. A concordance to the poems of Emily Dickinson. Ithaca, N. Y., Cornell Univ. Press, 1964. 899p. (computer-produced concordance) B930. 28-D2-3

Donne

Combs, Homer Carroll & Sullens Zay Rusk. Concordance to the English poems of John Donne. Chicago, Packard, 1940. 418p.

Dryden

Montgomery, Guy. Concordance to the poetical works of John Dryden... Berkeley, Univ. of California Press, 1957. 722p.

Emerson

Hubbell, George Shelton. Concordance to the poems of Ralph Waldo Emerson. New York, Wilson, 1932. 478p.

Euripides

Allen, James Turney & Italie, Gabriel. A concordance to Euripides. Berkeley, Univ. of Calif. Press, 1954. 686p. D25-37-1

FitzGerald

Tutin, John Ramsden. Concordance to FitzGerald's Translation of the Rubáiyát of Omar Khayyám. London, Macmillan, 1900. 169p.

Goldsmith

Paden, William Doremus & Hyder, Clyde Kenneth. Concordance to the poems of Oliver Goldsmith. Lawrence, Kans., Author, 1940. 180p.

Gray

Cook, Albert Stanburrough. Concordance to the English poems of Thomas Gray. Boston, Houghton, 1908. 160p.

Herbert

Mann, C. ed. Concordance to the English poems of Gorge Herbert. Reprint Hse Int'l.

Herrick

MacLeod, Malcolm. Concordance to the poems of Robert Herrick. Oxford Univ. Press, 1936. 229p.

Homer

Dumber, Henry. A complete concordance to the Odyssey of Homer. New ed., compl. rev. and enl.

by Benedetto Marzullo. Hildesheim, G. Olms, 1962. 398p. B991. 103-D1-1

Hopkins

Borrello, A. ed. Concordance of the poetry in English of Gerard Manly Hopkins. 1969 Rep. Scarecrow

Horace

Cooper, Lane. Concordance to the works of Horace. Wash., Carnegie Inst., 1916. 593p.

Housman

Hyder, Clyde Kenneth. A concordance to the poems of A. E. Housman. Lawrence, Kans., Author, 1940. 133p.

Joyce

Doyle, Paul A. ed. A concordance to the collected poems of James Joyce. New York, Scarecrow, 1966. B930. 28-J2-7

Hart, Clive. A concordance to Finnegans wake. Minneapolis, Univ. of Minn. Press, 1963. 516p.

Keats

Baldwin, Dane Leslie. A concordance to the poems of Johns Keats. Wash., Carnegie Inst., 1917. 437p. B930. 28-K1-2

Broughton, Leslie N. A concordance to the poems of John Keats. Washington, 460p.

Kyd

Crawford, Charles. Concordance to the works of Thomas Kyd. Louvain, Uystpruyst, 1906-10. 690p. B932-M2-C1-1

Lanier

Graham, Philip & Jones, Joseph. A concordance to the poems of Sidney Lanier, including the poem outlines and certain uncollected items. Austin, Univ. of Texas Press, 1939. 447p.

Lucan

Deferrari, Roy Joseph And others. A concordance of Lucan... Wash., Catholic Univ. of America Press, 1940. 602p.

Livy

Packard, David W. comp. A concordance to Livy. Cambridge, Mass, Harvard Univ. Press, 1968. B232-P2-1-1~4

Marlowe

Crawford, Charles. The Marlowe concordance. Louvain, Uystpruyst, 1928- B932-M3-C1-1

Carawford, Charles. The Marlowe concordance. Louvain, Uystpryst, 1911. Nendeln, Kraus Reprint, 1967. 520p. B932-M2-C1-2

Milton

Bradshaw, John. A concordance to the poetical works of John Milton. London, G. Allen and Unwin [1965] B930. 28-M2-2

Cooper, Lane. A concordance to the Latin, Greek and Italian poems of John Milton. Halle, Niemeyer, 1923. 212p.

Lockwook, L. E. Lexicon to the English poetical works of John Milton. New York, B. Franklin, 1968. 671p. B930. 28-M2-8

Ovid

Deferrari, Roy Joseph and others. A concordance of Ovid. Wash., Catholic Univ. of America Press, 1939. 2220p.

Petrarca

McKenzie, Kenneth. Concordanza delle rime di Francesco Petrarca. Oxford Univ. Press; New Haven, Yale Univ. Press, 1912. 519p.

Pope

Abbott, Edwin. Concordance to the works of Alexander Pope. New York., Appleton, 1875p.

Prudentius

Deferrari, Roy Joseph & Campbell, James Marshall. Concordance of Prudentius. Camb., Mass., Mediaeval Acad. of America, 1932. 833p.

Racine

Freeman, Brayant C. & Batson, Alan comp. Concordance du théâtre et des Poésies de Jean Racine. Ithaca, Cornell Univ. Press [c1968] (Cornell concordance) B950. 28-R3-9-1~2

Shakespeare

Bartlett, John. A complete concordance, or verbal index to words, phrases and passages in the dramatic works of Shakespeare, with a supplementary concordance to the poems. London, Macmillan; New York, St. Martin, 1965. B930. 28-S1-20

Bartlett, John. New and complete concordance or verbal index to works, phrases in the dramatic works of Shakespeare with a supplementary concordance to the poems. London, Macmillan, 1894. 1910p. D16-10-1

Becket, A. Concordance to Shakespare. Stuted

to all the editions... with 300 notes and illus. London, 1787. Rep. Ed. (A. M. S. Pr.)

Clarke, M. C. Complete concordance to Shakespeare. (Boston, 1853) Reprint Perint (A. M. S. Pr.)

Furness, Helen Kate Rogers. Concordance to Shakespeare's poems. 4th ed. Phila., Lippincott, 1916. 422p.

Howard-Hill, T. H. ed. Oxford Shakespeare's Concordance to the Text of the First Folio. Oxf. U. P.

The comedy of errors. 208p.

Two gentlemen of Verona. 244p. 購入済

Measure for measure. 288p. 購入済

The Merry Wives of Windsor. 272p. 購入済

The Tempest. 248p. 購入済

The Merchant of Venice. 240p.

As you like it. 240p.

All's well that ends well.

The Winter's tale. 240p.

Twelfth Night. 240p.

Much ado about nothing. 240p.

Henry IV, Part 1. 240p.

Love's labour's lost. 240p.

King John. 240p.

Henry IV, part 2. 240p.

Spevack, Marvin. A complete and systematic concordance to the works of Shakespeare. Hildesheim, G. Olms, 1968- B930. 28-S1-60-1~3

Stevenson, Burton Egbert. Home book of Shakespeare quotations, being also a concordance and a glossary of the unique works and phrases in the plays and poems. New York Scribner, 1937. 2055p.

Shelley

Ellis, Frederick S. Lexical concordance to the poetical works of Percy Bysshe Shelley. London, Quaritch. 1892. 818p. D16-3-1

Spenser

Osgood, Charles Grosvenor. Concordance to the poems of Edmund Spenser. Wash., Carnegie Inst., 1915. 997p.

Osgood, Charles Grosvenor. Concordance to the poems of Edmund Spenser printed before 1700. Baltimore, Johns Hopkins Press. 1933. 61p.

Statius

Deferrari, Roy Joseph & Eagan, M. Clement.

A concordance of Statius. Brooksland, D. C., Author, 1943. 926p.

Tenyson

Baker, Arthur Ernest. A concordance to the poetical and dramatic works of Alfred, Lord Tennyson... London, Routledge & K. Paul [1965] B930. 28-T3-1

[1914] D17-104-1

Thomas, Dylan

Williams, R. C. Concordance to the collected poems of Dylan Thomas. U. of Nebraska P., 1967. xiii, 579p.

Vaughan

Tuttle, I. ed. Concordance to the Vaughan's Silix Scintillans. Pennsylvania State U. P. 1969.

Whitman

Eby, Edwin Harold. A concordance of Walt Whitman's "Leaves of grass" and selected prose writings. Seattle, Univ. of Wahsington Press, 1949-54. 964p.

Wordsworth

Cooper, Lane. Concordance to the poems of William Wordsworth. London, Smith, Elder; New York, Dutton, 1911. 1136p. B930. 28-W5-2

Wyatt

Hagen, Eva Catherine. Concordance to the complete poetical works of Sir Thomas Wyatt. Univ. of Chicago Press, 1941. 527p.

Yeats

Parrish, Stephen Maxfield. Concordance to the poems of W. B. Yeats... Ithaca, New York, Cornell

Univ. Press, 1963. 967p. RB931. 03-P1-1

その他

J. J. Duggan. Concordance of the Chanson de Roland. Ohio State U. P.

Kottler, Barnet & Markman, Alan M. A concordance to five middle English poems. Cleanness, or Erkenwald, sir Gawain and the Green Knight, Patience, Pearl. Univ. of Pittsburgh Press [c1966] B931. 03-K1-1

Storr, Rayner. Concordance to the Latin original of the four books known as De imitatione Christi given to the world A. D. 1441 By Thomas à Kempis. London, Frowde, 1910. 599p.

Chaucer

Tatlock, John Strong Perry & Kennedy, Arthur G. Concordance to the complete works of Geoffrey Chaucer and to the Romaunt of the Rose. Wash., Carnegie Inst., 1927. 1110p. (Carnegie Inst. pub. 353) B930. 28-C2-7

Dante

Rand, Edward Kennard & Wilkins, Ernest Hotch. Dantis A lagherii operum latinorum concordantiae. Oxford, Clarendon Press, 1912. 577p. B970. 28-D1-3

Poe

Booth, Bradford Allen & Jones, Claude Edward. A concordance of the poetical works of Edgar Allan Poe. Baltimore, Johns Hopkins Univ. Press, 1941. 211p.

O'Neill

Reaver, J. Russell comp. An O'Neill concordance. Floride State Univ, 1969. 3 volumes. 1862p.

